小児在宅ケア研究会　会報

小児在宅ケア研究会　http://hc-cf.jp/

第 18 号　2023 年 9 月 1 日

この号の内容

1 小児在宅ケア研究会第 18 回年次集会の報告

2 2023 年度の総会報告

3 編集後記

2023 年度小児在宅ケア研究会　第 18 回年次集会の報告

新型コロナウイルス感染症の扱いが感染症法で 5 類扱いとなり、感染症対策も個人・事業者の判断が基本となったことにより、社会の状況はコロナ前の状況に戻りつつあります。その一方で、医療機関においては引き続き感染症対策が続けられており、まだまだ大変な日々を過ごされているのではないかと思います。この新型コロナウイルス感染症による影響が、今後様々な形で出現してくることも予測されるため、社会の変化にも関心をもち続けなければならないと感じている今日この頃です。

さて、今年度は小児在宅ケア研究会第 18 回年次集会を、4 年ぶりに京都橘大学にて開催いたしました。また同時にオンライン配信もさせて頂き、138 名（オンライン参加 47 名）の方にご参加いただきました。

今年度の年次集会はテーマを「すべての子どもが健やかな発達をとげるために」として、活動報告が 3 件、研究報告・活動報告が 2 件、そして講演というプログラムで開催しました。

事例報告の 3 件を発表された方は、全て小児在宅ケアコーディネーター研修会修了生の方でした。1 事例目の方は、研修会でも発表して頂いた事例に関して、研修会終了後の経過について発表していただきました。病棟と外来の看護師が一元化することにより継続した支援を行うことができ、それにより家族にも変化が見られたということが報告されました。また 2 事例目は、入院をしている医療的ケアを必要としているお子さんに付き添われているご家族の方が、お子さんとともに過ごす時間が増える事により、お子さんの反応をご家族なりに理解されるようになり、お子さんとコミュニケーションを取ることができるようになったことが報告されました。そして最後の事例では、出生後から特にお父さんが中心となりお子さんのケアをされてきたご家族に対し、多職種が会議を開催し、それぞれの思いを共有する過程の中で、お子さんやご家族にとって必要な支援について話し合いをされたことが発表されました。その話し合いでは、まずはご家族の思いを地域の支援者が共有することが大切であることを確認され、実践されたことで家族も安心して地域で生活することができたことが報告されました。この 3 事例を通して、継続看護の重要性、そしてお子さんやご家族の思いを大切にし、お子さんやご家族が家族らしく幸せに生活していくことができるような支援を、多職種と連携し支えていくことの重要性を改めて感じました。

研究報告では、相互主体性の概念に基づき、子どもとの間で家族が実感する感覚とその共有に注目した研修会を開催し、参加した看護師の認識の特徴と変化を明らかにすることを目的として、小児在宅ケアコーディネーター研修会に参加した看護師を対象に行った調査の報告が行われました。研修会終了後、子どもと家族を主体としたケアと、家族による養育に対する大切さや実施ともに肯定的に変化するという結果が得られた、研修会の成果があることが報告されました。

活動報告では、NPO 法人愛知県こどもホスピスプロジェクトで実施されている内容について具体的に報告されました。精力的に活動をされていることを知り、少しでも早くにホスピスが開設されてほしいと強く思いました。

最後の講演では、三重県の特別支援学校医療的ケアアドバイザーをされている仲野様から、学校看護師の活動に関して、実践例を交えながら詳細にお話をしていただきました。学校看護師が国内において増えてきていますが、新しい活動であり様々な課題となっています。学校という組織との関係など、これまで看護職として直接関わることの少なかった専門職との連携も必要であり、苦労をされている方も多いようです。仲野様のお話をきき、少しでも学校看護師の方の役割に対する理解が深まることを願っております。

今回ご参加頂いた皆様には、アンケートにご協力を頂いております。回答して頂けた方は少ないのですが、オンラインで参加し音声が途切れる状況の中でも満足して頂けたようでした。年次集会のプログラム及びアンケート結果は同封いたしますので、ご確認ください。

今年度の年次集会は、久しぶりに対面での開催となり、皆様と時間を共有することができて本当によかったと思っております。その一方で、オンラインで参加された方は大変ご迷惑をおかけいたしました。オンライン開催については、今後さらに調整を行い、少しでも皆様にご満足いただけ年次集会を開催していきたいと思っております。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

文責　小児在宅ケア研究会副会長　京都橘大学看護学部　堀妙子

2023 年度小児在宅ケア研究会総会の報告

2023 年度小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の 7 月 29 日に開催されました。

報告事項では、事務局報告で現在の会員数（134 名）の報告がされ、その後 2022 年度の活動報告が行われました。審議事項では、2022 年度の決算・会計監査（案）、役員・運営委員の選出、2023 年度の活動計画（案）、2023 年度の予算（案）に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料、議事録等をご覧ください。

編集後記

会報第 18 号が完成致しましたので、皆様にお届けしたいと思っております。

今年度は 4 年ぶりに年次集会を京都橘大学で開催致しました。また第 19 期小児在宅ケアコーディネーター研修会も京都橘大学で実施する予定としております。これまで昨年度の最後の研修会は対面で開催しましたが、参加者の多い年次集会は久しぶりであり、4 年前の事を思い出しながらの準備となりました。また、オンラインでの参加もできるようにすることで、より多くの方にご参加いただけるものと思い、準備を致しました。対面での多くの方に、久しぶりにお会いすることができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。しかし、オンラインでご参加いただいた方には、音声が聞き取りにくい部分があり、大変ご迷惑をおかけすることとなりました。本当に申し訳ありませんでした。
今年度の小児在宅ケアコーディネーター研修会は、今後第 2 回が 9 月 23 日（土・祝）、第 3 回目は 11 月 25 日（土）に引き続き京都橘大学で開催予定としております。一般の方そして修了生の方はオンラインで参加できるように準備しておりますので、お時間がありましたらご参加いただけたらと思っています。

社会で新型コロナの感染症は過去のものになりつつありますが、コロナ禍での生活は子どもたちの育ちに様々な影響を与えていることが少しずつ明らかにされています。そして少子化の傾向はさらに進み、2022 年度の出生数は 77 万 747 人となり、合計特殊出生率も 1.26 と低下しています。2023 年度上半期も出生数の減少は続いています。今年度には「子ども基本法」が施行され、2030 年に向けて本格的に少子化対策に取り組むことになりました。今後の動向に注目をしてきたいと思っております。

年度末に連絡先が変更となる予定の方、退会を希望される方等につきましては、恐れ入りますが、下記の小児在宅ケア研究会事務局までお知らせください。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

小児在宅ケア研究会事務局（京都橘大学看護学部：担当　伊藤・堀）
E-mail chc@tachibana-u.ac.jp　FAX 075-574-4266